

人間研究会

背景

昨年度の研究会では、人間がもつ最も基本的な特性が「自由」である(サルトル)ということを確認したうえで、人間が自由に取り扱うことのできない「他者」との関係に着目し、人間とは何かという問題を考察した。それを通じて浮き彫りになったのは、自己と他者との「同一性」や「共通性」が、重要な論点となることだった。そこで今年度着目したのは、人間の「身体」である。身体は、人間同士の関係だけでなく、他の生物や無生物を含んだ自然全体との関係を可能にする媒介項としても機能する。人間の身体を考察することで、人間について多角的に考察することが今年度の課題である。

目的

「人間」とは何か一人間の再考—

これまでの「人間」の在り方を再考しこれからの「人間」の在り方を見定めていかなければならない。

運営方法

場所:主にzoomミーティング

頻度:月に1、2回

形態:①研究発表・議論②講師招聘③読書会

①各自の専門分野について初修者にも分かり易20分で報告 質疑応答と議論

②専門分野の異なるメンバー間に共通する議題の発見を促す目的、外部の講師1名に講義を依頼

③あらかじめ設定した共通課題についての討議や読書会

市川造『精神としての身体』

第一章読解

・人間の身体を以下の5つの観点から分析。

- (1)主体としての身体
- (2)客体としての身体
- (3)私にとっての私の対他身体
- (4)他者の身体
- (5)錯綜体としての身体

メンバー・研究内容

文研・哲学／蛭子良風(代表)現象学・レヴィナス
国関／北和樹(副代表)AIロボットの規範
文研・英語圏／本井佑衣 対話におけるリズム分析
文研・英語圏／木下さき ハリー・ポッターにおける死生観
文研・英語圏／猪熊慶祐 アメリカ文化・文学

開催内容

・研究発表
「都市生活を可視化する——クリスティズ・ミントレルの笑劇」(猪熊)

「理論と欲望——フッサールの「理論」に対するレヴィナスの態度の変遷」(蛭子)

「対話におけるインタラクションリズムの重層的構造の解明——漫才対話と日常対話データの比較から」(本井)

「『ハリー・ポッターと死の秘宝』における死生観」(木下)

・読書会
『精神としての身体』第一章読書会

・講演会
神本秀爾氏先生(久留米大学)
「死者の個性化:ジャマイカ黒人の葬送の変化」

【通算8回開催】

※上記を除く数回は運営計画協議等を実施

